

本荘地区社協だより

本荘地区
社会福祉協議会
第14号

2020年12月1日
発行者 森 富裕

令和2度本荘地区社協

いつも違った年度

本荘地区の皆様には日頃から本荘地区社会福祉協議会活動にご理解ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

今年度は2019年中国武漢で確認され、日本でも今年2月確認された新型コロナウイルス感染症の影響を受け、政府は4月20日から5月25日まで全国緊急事態宣言を発令し、3蜜（密閉・密集・密接）の実行と外出自粛を求めた。

本荘地区社会福祉協議会も新型コロナウイルス感染症防止対策から委員会、通常総会議案の収支予算、役員変更、事業計画などの審議を書面での決議で行いました。

その影響は10月末でもコロナ禍にあり収束の兆しは見通せない状況が続いています。

しかし、このまま行事自粛が続くと地区が疲弊してしまいかねません。そこで本荘地区社協では令和2年度の計画行事を10月以降、感染状況を見ながら少しづつ形を変えながら実施する予定です。

餅つき大会50名、お飾りづくり200名は子供から高齢者までが一同に集まる地域のイベントとなつてますが、3蜜回避と食べ物直接手が触れることから中止としました。

しかし、年末の伝統文化でありますので、地区毎で少数で実施計画があればそれに協賛することとしました。

お雛まつりは、気持ち沈

みがちな時少しでも安らぎ和やかにと期間短縮で行います。男性料理教室は、指定レシピによりご家庭で男性が料理していただき費用支援します。見守り訪問は、昨年通り果物で慰問を予定しています。

このように時代に沿って変化させつつ、ふれあい、支え合う活動を通じ、みんなが心豊かに生活ができるよう役員一丸となって努力いたしますので今後も引き続きご指導ご

鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。
森 富裕

本荘地区社会福祉協議会 令和2年度・3年度 役員名簿		
役職	氏名	団体役員
会長	森 富裕	宇頭間金濱自治会会長 本荘学区自治会連合会会長
副会長	松井 守	高島自治会会長 本荘学区自治会連合会副会長
	中田 啓二	通生自治会会長 本荘学区コミュニティ協議会会長
	松井 孝志	塩生自治会会長
	梶田 英司	宇野津自治会会長
	高月 淳至	高室自治会会長
	小津野 照代	本荘地区吊し籠実行委員会代表 前本荘地区愛育委員会会長
理事	片山 美登里	本荘地区民生委員・児童委員協議会会長
	高月 直子	本荘愛育委員会会長
	中田 佐和子	本荘愛育委員会副会長
	蓮岡 福子	本荘栄養改善協議会会長
	佐伯 マス	本荘栄養改善協議会
	岡本 栄子	本荘学区交通安全母の会会長
	中道 博文	本荘学区コミュニティ協議会事務長
	亀井 伸人	本荘小学校PTA会長
	池田 寛子	本荘保育園後援会会長
	阿部 要	消防本荘分団分団長
	原 肇	児島地区環境衛生協議会 本荘支部支部長
	山崎 博史	老人会本荘支部長
会計	原 邦夫	本荘学区自治会連合会会計
監事	西原 博美	塩生自治会婦人部長
	森 和彦	宇頭間金濱自治会書記 本荘地区活性化推進協議会
顧問	原 勲	倉敷市議会議員 宇頭間金濱自治会顧問
	片山 貴光	倉敷市議会議員 塩生自治会顧問

令和2年度 本荘地区社会福祉協議会 活動事業	
事業名	
①	歳末ふれあい餅つき・マーケット事業
②	男性料理教室事業
③	三世代しめ縄作り事業
④	三世代ひな祭り事業
⑤	見守り訪問事業
1.	高齢者サロン活動事業
2.	防災講座事業
3.	福祉講座事業
4.	交通安全事業
5.	地域安全事業
6.	環境美化事業
7.	親子ふれあい事業
8.	協会誌発行事業
9.	地域活性化事業



令和元年度事業報告

歳末ふれあい餅つき大会
お飾りづくり大会

令和元年12月9日(日)例年別々に行われた事業ですが、今年是一緒に本荘小学校に於て歳末ふれあいもちつき大会及びお飾りづくり大会が行われました。



餅つき大会は、地区内で活動する六地区自治会、本荘消防分団、民生委員、愛育委員会、栄養改善協議会、保育園、小学校教職員およびPTAをはじめ地域で活

動する全ての団体、そして近隣コンビニート企業のご協力で50名の参加で盛大に行われました。

昭和時代まで餅つきは多くのご家庭が親戚などと正月準備の普通の光景でした。当日は大人は昔を懐かしみ、子ども達は日本の文化を肌で体験でき、そして、つきたての餅をほろぼり笑顔が絶えない時を過ごしていました。

また正月お飾りづくりは、本荘小学校で地域の高齢者の方々の指導のもと200名の参加で行われました。



お飾りを右縄・左縄で作るのは難しく、だんだん少なくなり、代用として三つ編みの要領でお飾りを作っていました。またリース飾りも多くなっています。みんなこれでお正月準備も整ったと満足していました。

このように地域に住む多くの人々が活動を理解し、協力し、子供達に日本の伝統文化を伝承する事業が出来る地域を大変誇りに思っています。これが本荘地区の強みと感じています。

男性料理教室

令和元年7月31日本荘公民館で男性料理教室が参加者16名で行われました。

日本は昔、男性厨房に入らず・など男性の価値観が違う時代がありました。しかし時代は人は平等であり、男女も平等にの考え方が支流になり、男女雇用機会均等法が施行されるなど女性の地位は向上しました。



しかし、現在定年を迎える世代は高度成長時の日本を支え、家庭より仕事と猛烈に働いた人たちが多い。そして、定年を迎え会社の仕事場から放り

だされ働くという目標がなくなった人もいるのではないかと思う。家庭では食の食事!!・奥様は大変だと思えます。この男性料理教室は、奥様の苦労を知ること、定年後の男性の行き場づくりと将来男性が人生百年時代を健康で自立できる生活を送る大切な「料理」を学ぶことは大変素晴らしい企画と思えました。男性も頑張ろう



家庭においても、共稼ぎの家族も増え、料理、子育てなどの家事はお互いが協力し合っつての生活が定着しつつあります。

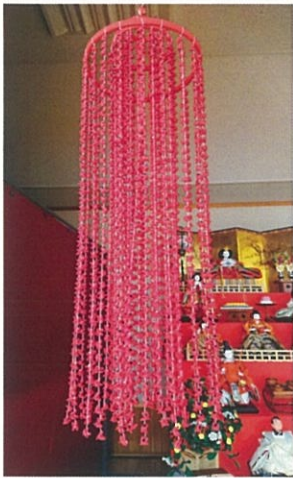
三世代 吊るし雛まつり



令和2年2月22日から3月2日まで宇頭間金濱自治会館で第2回本荘吊るし雛祭りが盛大に行われました。



今年はいくらしき雛祭りの児島地区雛めぐりに協賛した本荘ひな祭りとして行なっていました。この吊るし雛は地区に住む有志が半年かけて毎週手作りで作ってきた作品ばかりです。そして段飾りは3基、今では持つ家庭も少なくなっ



た自分の子供あるいはお孫さんの7段飾りのお雛さまで、道具のひとつひとつ手作りの大変立派なものです。そして吊るし雛はすべて手作りで、桃太郎、千支の子(ねずみ)や金魚など大きいお雛が2511体、小さいお雛が4300体が会場いっぱい展示されていました。本荘保育園児の作品も和室に飾られ見学者は可愛いねと笑顔で見入っていました。

また男性アルミ缶飾りは、屋外玄関横に展示されひな祭りムードを盛り上げました。そして豚汁・甘酒も男性が心を込めて作



り見学者に接待しました。今年延べ600名が見学に訪れ、スタッフの作り方説明に耳を傾ける人もいなど、見学者は皆さん満足の様子でした。今回は開催後半に、新型コロナウイルス感染症が発生し、3蜜回避、来場者の手指消毒や会場換気が必要となり大変でしたが無事祭りを終わらすことができました。「吊るし雛づくり有志」の皆様から感謝申し上げます。



来年はもっと作りたいの声を聞き嬉しく思います。



見守り訪問事業

令和2年3月28日見守り訪問事業を行いました。

毎年栄養改善協議会の皆様がお寿司を作り、地区毎に愛育委員の皆様が、80才以上のひとり暮らしの高齢者の方々に見守り訪問をしています。しかし今年は新型コロナウイルス感染症対策でお寿司づくりはできません。そこで何か勇気づけることは無いかと思索した結果「果物とパンそしてメッセージ」を持って訪問し「コロナに負けないよう頑張ってください」とお声がけをし大変喜ばれました。



愛育委員・栄養改善による子育て支援事業



令和元年7月10日、本荘公民館で、本荘愛育委員会、本荘栄養改善協議会、児島保健推進室の方々が子育て支援の事業として、テーマは子育て中の親子が地域の人たちとの交流と楽しい遊びや仲間づくり「ひろばで遊ぼう・・・」が29名の参加で行われ、日頃の子育ての悩みを忘れたひと時を過ごしました。

地域活性化事業 出雲吊るし雛視察研修

令和2年2月5日地域活性化事業として出雲にオープンした、ねがい雛ミュージアムの視察をおこない本荘吊るし雛祭りの大変参考になりました。

この視察研修は、高齢化する地域の活性化を目的に平成25年鳥取県智頭町役場を訪問し子育てや高齢者対策を学び、平成26年は徳島上勝町の葉っぱビジネスを学び、平成27年倉吉市関金町役場の地域おこしを学び、平成28年岡山県新庄村役場で生き残りをかけた地域の取組みを学ぶことができました。



地域への思いやり方法を

「計画・実行・検証・見直し」

平成29年本荘地区活性化推進協議会を立ち上げ、岡山県備中県民局の「人づくり・地域づくり応援隊」事業に参画し大学生と地域で活動する方々で地域活性化の対話を重ねた。しかし高齢化は進み地域人口減少は進むばかりです。

そんな時、平成30年7月西日本豪雨が発生、倉敷市真備町の多くの世帯が水没する大災害が発生しました。本荘地区社会福祉協議会として何か出来る事は無いかと思いい、7月19日から倉敷市社会福祉協議会が運営する玉島長尾の「災害ボランティアセンター」が閉所まで本荘地区延べ251名のボランティアが参加しました。この体験は本荘住民が人への思いやりとして行動力をまじかに感じた出来事でした。それを期に地域への関わり方が少し変わりました。何事は早い情報伝達、そして物事を共有する事、そして継

続することが重要であると感じています。本荘地区で情報伝達手段で地区新聞が発行されている。高齢者が地域に住み続けられるように本荘地区活性化事業の令和元年度(2019)は約100件の生活支援を行いました。
住んで良かった本荘地区を目指し、皆様の手となり足となるる活動を続けるつもりです。
一層の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

【篤志ご寄付】

- ・岡部 昭弘様 (金一封)
- ・本荘学区自治会連合会 (金一封)
- ・本荘地区活性化推進協議会 (金一封)
- ・本荘学区コミュニティ協議会 (金一封)

地区社協活動に活用させていただきます。ありがとうございました。